

ようやく秋の訪れが感じられるようになりましたね。
待ちわびた涼風に、虫たちの音色もひとときわ冴えわたって、心に染み入る
ようです。

わが子をまるごと肯定して
守ってあげられるのは
あなたしかできないことです



～児童精神科医・佐々木正美氏の著書

「抱きしめよう わが子のぜんぶ」の中の一節です。～

思うようにならないことの多い子育ての日々、著者はお母さん達の奮闘
にエールを送ると共に、**脳科学**の面からも、幼児期の育児環境の重要性に
ついて、本書のエピローグの中で、分かり易く解説しています。

とても興味深い事なので、要旨をピックアップしてみました。

- 近年、脳科学の発達により、長い間謎の多い未知の領域だった、脳の最前部、前頭前野(前頭連合野)と言われる部分の働きが次第に明らかになってきた。
- この部位は、人が、過去の記憶・知識・経験として持っているあらゆる事にアクセスして、未来(これから)の事を、予定・推測・想像・計画する、言わば脳全体を制御するコントロールセンターである。
- 心の面でも、感情や衝動を自制したり、相手の気持ちや立場に共感しながらコミュニケーションしていく、とても大切な中枢部位といえることができる。
- 脳と心が直結している前頭連合野は、機能が健全に育つための、2度の大きな発達期があるとされている。

① 度目は、乳幼児期から、早期幼児期。

② 度目は、思春期。

発達期のこの時期に、子どもたちが安心して信頼できる家族や友人と共感的にコミュニケーションできる環境が、とても大切であると結んでいます。